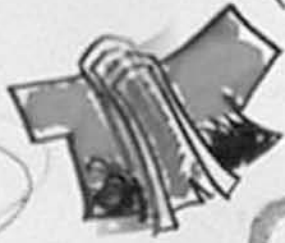
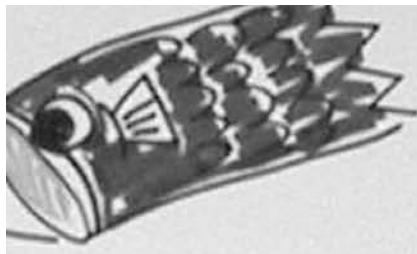


SAY YES FOR CHILDREN

Love & Peace

郁江

HANABI

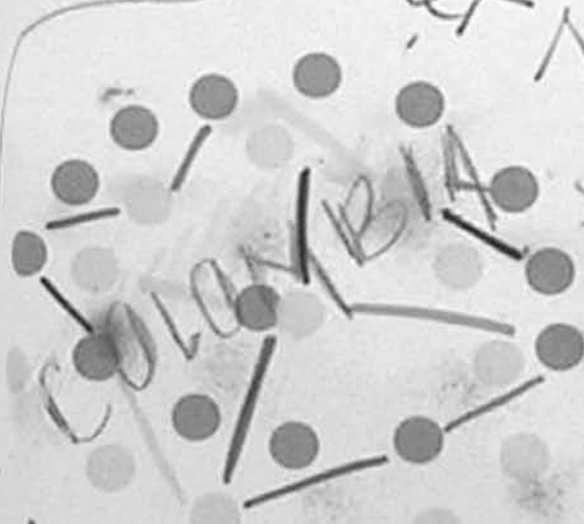


green
te
mina
mii!

I love Peace
Viva Colombia
Say yes for Children's

Thuy Trang

Việt Nam



Say yes for children
9-07

los unidos STREET VISIT

8

国連子ども特別総会にて

「僕たちの国は1990年に子どもの権利条約に調印しましたが、その実現のためには、まったくと言っていいほど何もやってきませんでした」と、17歳の代表は体を震わせながら話した。震えていたのはただただ情熱のゆえで、緊張していたからではない。「みなさんの約束には賛成ですが、今度は本気だということを見せてもらわないといけません。僕は心から話しています。みなさんも同じようにしてください」⁽²⁾

子どもと参加を取り巻いている、考えうるかぎりのあらゆる機会と利益と落とし穴が、国連子ども特別総会（2002年5月）の準備の過程で問題となった。これは、国際的レベルにおける意味のある子ども参加のテストケースのようなものであり、ユニセフも、各国政府も、非政府組織も、まったく新しい分野に足を踏み入れることとなった。

子どものための世界サミット（1990年）以来、子ども参加の重要性に関する認識は高まってきていた。これは子どもの権利条約によるところが大きい。また、国際会議に子どもが参加できるようにしようと試みる体制も整いつつあった。1997年、自らの活動への子ども参加についてユニセフが組織的レビューを行ったところ、ユニセフが支援したプログラムのうち総計302のプログラムから、若者が参加しているという報告があった。とくに高い参加率が見られたのは、中央・東ヨーロッパおよび独立国家共

同体地域と、東部・南部アフリカ地域であった。

国連子ども特別総会の準備は早い段階から始まり、広範な地域協議が行われた。世界サミット以降の進展を振り返り、将来に向けた行動の指針を提示するために北京、ベルリン、カイロ、カトマンズ、キングストン、パナマシティ、ラバトで開かれた各高級レベル会合には、若者団体も参加した。

ニューヨークで何度か開かれた正式な特別総会準備会合においても、実験を試みる機会、そして避けられない誤りから学ぶ機会が提供された。

子どものためのグローバル・ムーブメント

特別総会に向けた準備の過程で展開された「子どものためのグローバル・ムーブメント」には、おとな、青少年、子どもたちが、子どもの権利のためのキャンペーン、相談活動、改革運動に従事してきた

子どもフォーラムで制作された、全長26フィート（約8メートル）に及ぶ横断幕の一部。154カ国から参加した400人以上の子ども代表が、言葉や絵でメッセージを書く機会を得た。

人々が、そして子どもにふさわしい世界を創り出したいと願っている人々が、結集した。世界が優先課題を見誤っていることに対し、子どもや若者が自分たちだけで異議を申し立てるよう期待できないことは認識しつつも、このエネルギーな同盟は、子どもたちの情熱と視点を**抜きにして**、おとなたちだけでこの仕事を進めることもできないという考え方に達していた。

グローバル・ムーブメントの中核となったのは、2001年3月に世界各国で開かれたイベントの場で開始された、世界規模の一大キャンペーン「セイ・イエス・フォー・チルドレン」(子どもたちのためにイエスと言おう)である。そこでは、おとなも子どもも同じように、ひとつの誓い——「私は、すべての子どもが健康に、平和の中で、尊厳をもって成長できるべきだと信じます」——に対して「イエス」と言い、グローバル・ムーブメントの10項目の行動課題を支持するよう要請された。その次に、一番重要だと考える3つの優先行動課題を挙げるよう求められた。これほど大規模なキャンペーンへの参加は、限定的なものにならざるをえない。けれども、このように双方向の要素が——インターネットを通じてであれ、幅広く配布された記入用紙を通じてであれ——導入されたことは、間違いなく、子どもとおとなをこのプロセスに引きこむのに役立った。

2002年5月、ニューヨークで開かれた「子どもフォーラム」の場で、「セイ・イエス」の誓いの署名がネルソン・マンデラとグラサ・マシエルに手渡された。それまでに、署名総数は——予想をはるかに越えて——9,500万近くに達していた。そのなかには、中国の2,000万、そして目覚ましい成果を収めたトルコの1,600万(人口の4人に1人)も含まれている。圧倒的な数の署名が子どもたちからも寄せられ、もっとも緊急の3つの問題として教育、差別、貧困が挙げられた。

さらに重要なのは、できるだけ多くの人々に参加してもらおうという意欲により、子どもの権利に関する議論と意識啓発を促進する集中的な機会が用意

されたことである。たとえばペルーでは80万人の子どもたちが「イエス」と言った。東アジアでは、10ヵ国がこの機会をとらえ、「セイ・イエス」キャンペーン

の一環として「全国子どもフォーラム」を開催した。各国で選ばれた代表はラオス人民民主主義共和国で開かれた地域フォーラムに出席し、そのなかから、国連子ども特別総会に地域代表として参加する子ども代表団が選出されている。シリア・アラブ共和国で開催された全国セミナーでは、6~12歳の子どもたち150人が、作家、芸術家、教育専門家、テレビ・プロデューサーと子どもの権利条約について話し合った。子どもたちは、子ども議会開催の要請も含まれた勧告のリストを首相に提出し、いまこそ恐れずに変革を望みますと述べた⁸³⁾。

「セイ・イエス・フォー・チルドレン」キャンペーンは、何百万人もの子ども・若者たちに一定の参加を可能にしたのである。彼らは、自分たちが地域で行った誓いがネルソン・マンデラやグラサ・マシエルのようなリーダーに手渡され、彼らから国連子ども特別総会の場へ提出され、そしてさらに成果文書および世界各国の政府が行った宣言に反映されていくという、1本の道筋をたどることができた。

子どもフォーラム

400人以上の子どもたちが、5月の国連子ども特別総会に出席するためにニューヨークへやってきた。その出身国は150ヵ国以上に及び、ほとんどはティーンエイジャーだったものの、10歳の子どももいた。選挙ではなく政府かNGOによって選ばれたため、代表と見なすことはできない子どもたちもいる。他方で、堂々としているとか弁が立つという理由だけではなく、子どもの権利擁護の活動にすでに熱心に参加していたため、あるいは自分自身でキャンペーンを開始したために選ばれた子どもたちも多かった。

子どもフォーラムは3日間にわたって開かれた。開会宣言は国連事務総長が行い、閉会のセレモニー

では、名誉ゲストとして招かれたネルソン・マンデラ、グラサ・マシエル、ナーネ・アナン国連事務総長夫人が司会を務めた。開会式が終わって閉会記念式典が始まるまでの間、会場にいたおとなは通訳とファシリテーターだけである。子どもたちは地域別のグループに分かれて話し合いを開始し、ともに過ごす時間のルールとしておたがいの尊重、「多様性のなかの団結」という基本原則を定めた。その後、子どもたちはグループに分かれ、もっとも重要な8つの問題について議論した。子どもたちが挙げた8つの問題とは、搾取・虐待、環境、戦争からの保護、子ども参加、健康、HIV／エイズ、貧困、教育である。書記と、共同アピールを起草するグループも選出された。

その共同アピール「私たちにふさわしい世界」は、ボリビア出身のガブリエラ・アジュルデュイ・アリエッタ（13歳）とモロッコ出身のオードリー・シェイヌ（17歳）によって、国連子ども特別総会の場で読み上げられた（パネル8「私たちは世界の子どもです」66ページ、および74～79ページのマップ参照）。

「いままで、僕は自分の地域の子どもの問題しか知らなかった。でも、今日初めて、世界中の子どもの問題を知った。こうやって共有して意識を高めることで、僕たちはおたがいをもっと身近に感じるようになり、おたがいに共感できるようになった。それに、僕は今日、自分の国の子どもの権利のためだけでなく、世界の子どもみんなの権利のために立ち上がらなきゃだめだと感じるようになった。僕たちはひとつだ！」

「文書に含められた子どもたちの意見と言葉はすごくよかった。子どもの声をもとにした文書が読み上げられるのを聴くのは、初めての経験だ。それを聴いて、僕はこう思った。『子どもはチャンスがあれば世界を変えられるんだ。僕たちはそのチャンスのために闘わないといけないんだ』⁸⁴⁾

ジェハンゼブ・カーン（12歳）、パキスタン

あらゆる場所に子どもたちがいた

国連子ども特別総会で子どもたちが及ぼした影響は、子どもフォーラムだけに留まらなかった。子どもたちの存在と参加は、議事進行の過程を、このような国際会議では欠落していることがあまりにも多い率直さと理想主義と誠実さで満たし、総会のスタイルそのものを変えたのである。記者会見やフィードバック会議で、子ども代表は自分たちが達成した成果を説明し、自分たちが何を期待しているか、驚くほどの確信を持って並べ立てた。この新鮮なアプローチが、別の場所でよく見られる、おとな同士の無味乾燥なやりとりと比べて好ましく映ったことは言うまでもない。15歳のマヌエル・デ・ヘスス・アコスタ・デルガード（ペルー）が、次のように語るとおりである。「子どもには、いろんなことをすごく高いところから見る大統領よりも、ずっと深いビジョンがある。何をしなければならぬか、理解する力もずっと大きい。子どもたちはありのままを口にするんだ——そして、ありのままの感じ方を」⁸⁵⁾

ワークショップやサイドセッションは、地球の隅々からやってきた子どもたちの生の声で、活気のあるものとなった。子どもたちがその場にいたこと自体が、彼らが語った内容と同じぐらい、メッセージを発していた。子ども参加の大切さを熱烈に信じる気持ちが、そこらじゅうに共鳴していた。「私たちは準備OKよ」と、ウクライナのティーンエイジャー、カテリーナ・ヤスコは言う。「対等で、意味のあるパートナーシップを提案するわ……」

「世代間の対話」と題したいくつかのワークショップで、子どもたちは各国の首相や王子、大臣、国際機関トップと直接対峙した。情熱のこもった子どもたちの率直さには、しばしば目覚ましいものがあった。たとえば、16歳のファトゥマツ・ヌデュレ（ガンビア）は、自身が議長を務めた「アフリカについての世代間対話」で参加者——そのなかにはモ

ザンビーク大統領やレソト国王もいた——に歓迎の辞を述べるにあたり、こう言ったのである。「まず、アフリカの子どもみなさん、ようこそ。次に、子どもに優しいすべてのおとなみなさん、ようこそ」

特別総会での子ども参加が全体としてどのぐらい前向きな影響を与えたのか、量ることは不可能である。けれども、それが子どもひとりひとりの人生をエンパワーし、変容をもたらす効果を与えたことは、容易に想像できる。

「国の外に出たのはこれが初めてでした」と、ギニアビサウからやってきたウモ・アウア・バリ（17歳）は説明する。「こうやって、世界で一番パワフルな場所をこの目で見れたのもすごい。だけど、最高なのは子どもたちといっしょにいることです。ここで、世界全体と出会えたような気がしました。子どもの問題は前から、とくにアフリカについてはある程度知っていたけど、子どもの可能性についてはあまり知らなかった。新しい世界が創れるんだということがわかりました。いまでは世界全体が、世界を変えなきゃいけないとわかっています。それぞれの場所に住んでいる人みんなが、世界の未来は子どもたちにあると感じなければいけないんです」

子どもたちと、力を持った男女のおとなが世界を変えるためにこうやって熱心にやりあうこと、そこ

からは悪い結果など生まれようがないのだと感じざるをえない。たとえば国連安全保障理事会は、特別総会中に子どもと武力紛争についての公式会合を開き、生活を戦争に脅かされてきた3人の子ども——それぞれアフリカ、アジア、ヨーロッパの国出身——の話を聴いた。

「戦争のさなかにある子どもたちを助けるためにみなさんができる一番いいことは——」と、ボスニア・ヘルツェゴビナ出身のエリーザ・カントルディッチ（17歳）は安全保障理事会に向かって言った。「戦争をとめること、戦争を防ぐことです。そして、安全保障理事会はその力を持っています。本当に関わらなければいけないのは、その力は活用されていますか？ ということなのです」

「子どもたちが安全保障理事会の場で話をする場が与えられたこと、それ自体が大きな変化であり、重要なことなのです」と、グラサ・マシエルは語る。「武力紛争が子どもに及ぼす影響」に関する国連報告書（1996年）や、最近出版された『戦争が子どもに及ぼす影響』（The Impact of War on Children）の執筆者で、今回の安全保障理事会でも話をした人物である。「子どもたちは、自分たちが何を感じているか、そしておとなたちに何を期待しているか、政府を含むどんな人にも語ることもできる、最高の場所に立つことができたのです」⁸⁶⁾

「私たち子どもは、現在の社会で8歳、12歳あるいは17歳でいることがどうということなのか、一番よく知っている存在です。……私たちに相談することで、みなさんの活動はもっと効果を発揮することができ、子どもにとっていっそうよい結果をもたらすことができるでしょう。私の提案は、私たちをみなさんのチームの一員にしてください、というものです」

ハイディ・グランド(17歳)

国連子ども特別総会ノルウェー政府代表団メンバー

パネル 8

子どもフォーラムの初日（2002年5月5日）参加した400人以上の若者たちに向かって話をするコフィ・アナン国連事務総長（中央）。事務総長は、国連という場に子どもたちがいることがいかに重要であるかを語り、子どもたちの声に耳を傾けると約束した。

私たちは世界の子どもです



国連子ども特別総会に先立って行われた「子どもフォーラム」での3日間に渡る討論・討議の末、約400人の若者たちは、世界の指導者たちに向けて発表する声明の内容について合意した。ボリビア出身のガブリエラ・アジュルデュイ・アリエッタ（13歳）とモロッコ出身のオードリー・シェイヌ（17歳）が、子どもたち自身の手で代表に選ばれた。2002年5月8日、特別総会が開会すると、この2人のフォーラム代表は総会議場に立ち、子どもたちのメッセージを読み上げた。この歴史的な瞬間に、史上初めて、子どもたちが子どもたちを代表して国連総会で正式に演説し、よりよい世界に向けた子どもたちのビジョンを表明したのである。

私たちにふさわしい世界

私たちは世界の子どもです。

私たちは搾取と虐待の被害者です。
私たちはストリートチルドレンです。
私たちは戦争下の子どもたちです。
私たちはHIV／エイズの被害者であり孤児です。
私たちは良質の教育と保健ケアを否定されています。
私たちは政治的、経済的、文化的、宗教的および環境的な差別の被害者です。
私たちは声を聴いてもらえない子どもです。そろそろ私たちの声を考慮してもらわねばなりません。
私たちは子どもにふさわしい世界を求めます。私たちにふさわしい世界は、すべての人にふさわしい世界だからです。

その世界では、

子どもの権利が尊重されます。

- 1b 政府とおとなが、子どもの権利の原則に本当にかつ効果的にコミットし、すべての子どもに子どもの権利条約を適用します。
- 1b 家族・コミュニティ・国に、子どもにとって安全で、安心でき、健康的な環境があります。

搾取・虐待・暴力がなくなります。

- 1b 子どもを虐待・搾取から保護する法律がすべての人から実施・尊重されます。
- 1b 被害を受けた子どもの生活を立て直すのを助けるセンターやプログラムがあります。

戦争がなくなります。

- 1b 世界の指導者たちが、武力を使用する代わりに平和的対話を通して紛争を解決します。
- 1b 難民の子どもと戦争の被害を受けた子どもがあらゆる方法で保護され、その他の子どもと同じ機会を持ちます。
- 1b 軍備が縮小され、武器の売買がなくなり、子ども兵士の使用がなくなります。

保健ケアが提供されます。

- 1b すべての子どもに、生命を救ってくれる薬と治療が、負担可能でアクセスしやすい形で保障されます。
- 1b 子どもにとってよりよい健康を促進する強力かつ責任のあるパートナーシップがすべての人々の間に築かれます。

HIV／エイズが根絶されます。

- 1b HIV予防プログラムを含む教育システムがあります。
- 1b 無料の検査とカウンセリングセンターがあります。
- 1b HIV／エイズに関する情報を一般の人々が無料で利用できる



ます。

- 1b エイズ孤児およびHIV／エイズとともに生きている子どもがケアされ、他のすべての子どもたちと同じ機会を享受します。

環境が保護されます。

- 1b 天然資源が保全・回復されます。
- 1b 子どもが発達に好ましい健全な環境で生活する必要性に関する意識が高まります。
- 1b 特別なニーズをもつ子どもがアクセスしやすい環境になります。

貧困の悪循環がなくなります。

- 1b 支出を透明化し、すべての子どものニーズに注意を払う貧困根絶委員会があります。
- 1b 子どものための進展を妨げる債務が帳消しにされます。

教育が提供されます。

- 1b 無償で義務的な質の高い教育に対する平等な機会とアクセスが保障されます。
- 1b 子どもが学ぶことが楽しいと感じるような学校環境があります。
- 1b 単なる学問を越え、理解、人権、平和、受容および市民としての積極的なあり方についての授業を含む、生きるための教育があります。

子どもが積極的に参加します。

- 1b すべての年齢の人々の間で、子どもの権利条約の精神に基づき、全面的かつ意味のある参加に対するすべての子どもの権利についての意識と尊重の念が高まります。
- 1b 子どもがすべての段階の意思決定と、子どもの権利に影響

をおよぼすあらゆることからの計画づくり、実施、モニタリングおよび評価に活発に参加します。

私たちは、この子どもの権利のための闘いにおける対等のパートナーシップを誓います。 私たちは、おとなが子どものために行う活動をサポートすることを誓いますが、私たちの活動へのコミットメントとサポートも求めます。なぜならば世界の子どもたちは誤解されているからです。

私たちは問題の根源ではありません——私たちは問題解決のために必要な資源です。

私たちは支出ではありません——私たちは投資です。

私たちは単なる若者ではありません——私たちはこの世界の人間であり、市民です。

私たちへの責任を他の人々が受け入れるまで、私たちは権利のために戦います。

私たちには意志があり、知識があり、感受性があり、献身があります。

私たちはおとなになっても、子どもとしていま持っているのと同じ情熱で子どもの権利を守ることを約束します。

私たちは尊厳と尊敬をもってお互いを扱うことを約束します。私たちは、違いに対してオープンかつ敏感であることを約束します。

私たちは世界の子どもです。 私たちのバックグラウンドの違いに関わらず、私たちは共通の現実を共有しています。

私たちは、世界をすべての人々にとってよりよい場所にするよう闘うことで手を取り合っています。

みなさんは私たちを未来と呼びます。けれども私たちは現在でもあるのです。

(平野裕二訳)